

# 巻 頭 言

おくれせながら、新年おめでとうございます。

さて、船舶工学科同窓会ニュース「ふね」32号をお届けします。工学的な分析によると「ふね」の発行時期と会費納入率との間には有意な相関がみられるようで、同窓会の会計理事から『できるだけ早く発行するように！』との強い要請と圧力を受けつつ編集作業を進めました。ところが編集部の手不慮により、なかなか原稿を集めることができません。そこで、同窓会理事会に特別なご支援ご協力をお願いした結果、ありがたくも多くの原稿が寄せられたという次第です。おかげで、前号とおなじ冊子サイズを維持することもできました。

このように毎度のごとく編集発行に四苦八苦しておりますが、みなさまが納入くださる貴重な会費にみあうような同窓会ニュース「ふね」をめざして、編集部は努力いたします。そのためにも、みなさまからのご協力をお願い申し上げます。

ところで実際的には、同窓会ニュースの大きな柱は「会員録 update」です。会員諸氏のアクティビティの高さもあって、わずか半年間だけでもデータ変更の分量の多さに驚かされます。速報性ではコンピュータネットワークによって事務局の会員データベースを閲覧できるようにすればよいのですが、そこまで個人情報を外部へオープンにするのは問題があるでしょう。E-mail のアドレスも記載されている会員録ですから、その取扱いにはくれぐれもご注意ください。

今年も会員のみなさまにとって、よい一年となりますように。

編集委員長 定兼廣行

## 教 室 人 事 異 動

### ◇正岡 孝治 講師

平成12年4月1日付けで助教授に昇任予定。

### ◇田原 裕介 講師

平成12年4月1日付けで助教授に昇任予定。

新たなスタート、  
おめでとうございます！

特集:私のTURNING POINT

# わが人生の節目

大学13期 吉久 英昭

## —人生の節目と幸福感—

誰でも人生には幾つかの節目があり、そこでの選択によってその後の人生が大きく変わる場合があると思う。しかし誰もその選択肢の両方を体験する事はできないのでその選択がより良いものであったかどうかは分からない。またその人生が幸福であったかどうかはその人の受け止め方次第であるから、外部の者が一概に決め付けることは出来ない。

私は幸福とはお金や地位や友人に恵まれる事ではなく、自分に与えられた(自分で選んだ)人生のその時々々の状態を満足(感謝)しつつ生きられることではないかと思っている。

以下に私の人生の節目として入学、就職、結婚、退職について振り返って見る。

## —大学入学—

私は高校時代には理系に進むには数学の、文系に進むには英語の学力が不足するという中途半端な成績であったが、自分の好きな理系に進むことにして、現役では阪大の理学部を受ける事にした。

3年生の夏休みには暑さで能率が上がらない昼間は寝て、夜中に2階の物干し場に蚊帳を吊って勉強し、かなり自信を持って臨んだが、結果は不合格であった。

浪人して予備校に通っていた6月になって、前年夏の不規則な生活が影響したのか胃潰瘍で多量に出血し、その治療に5ヶ月を要した。このため受験勉強が十分出来なかつ

たのと、2浪はできないという気持ちから1浪での受験は合格の可能性の高い国公立大学を選ぶこととした。

1期校としては岡山大の理学部物理学科を、1期と2期の中間の大学としては大阪府大の工学部(志望順位は電気、航空、船舶)を受験した。運良く岡山大の物理学科と府大の船舶工学科の両方に合格したが、身体があまり丈夫でなかったため、下宿するより家から通える方が安心だし、費用も安く済むので(当時の授業料は大阪府民の子弟の場合は年額8,000円であった)第3志望ではあったが府大の船舶工学科に進学することにした。

## —就職—

大学に入ったら授業は少なく、自由時間が多く取れると聞いていたが、最初は120分授業を1日に4科目もとらなければならない日も多くあり、クラブに入る余裕はなかった。真面目に勉強したが、数学の単位を取るのに苦勞し、留年せずに専門課程に進めるか心配したこともあった。専門課程では岩佐教授の船舶設計講座に所属し、主に田口先生や外山先生にご指導頂いた。

当時の船舶工学科生の就職先は、主任教授が学生の成績に応じて推薦される事になっており、私は推薦された日立造船に就職した。

このように私の場合はその時の状況と成り行きによって船舶工学科に入学し、その延長線上で造船会社に就職したので、進学・就職に関して特に決断したというよりは流れ

にまかせた感じである。

### —結婚—

私は子供の頃から体が小さく、小学校卒業時でも身長 125cm だったので大人になっても 150cm になれるかどうか自分自身でも心配であった。

背の低いことによるハンディを日頃から強く感じていたため、自分の子供は少なくとも人並みの身長になってほしいと思い、結婚する相手は自分より大きくて明るく健康な人が良いと思っていた。当時はまだ 3 高(高身長、高学歴、高収入)が婿選びの条件にはなっていなかったが、小さくて風采の上がない私に適当な相手が見つかるか心配であった。

入社後 5 年を過ごした日立造船因島工場勤務時代に、会社の先輩や寮の関係者などの紹介で何度も見合いをしたがうまく纏まらなかった。しかし、大学時代の友人と一緒にスキーに行った時に紹介してくれた女性と 1 年後に結婚にゴールインすることが出来た。だから結婚は自分では予想もつかない所に縁があって結ばれる物だという気がする。

### —退職—

入社後約 25 年間は造船の設計関係業務に携わり、その間優しい上司に恵まれて割合マイペースで仕事が出来たが、次男が大学に入った頃は日立造船が経営の危機に陥って、造船基本設計部が別会社になっていた時期であり、私はその会社に転職になり設計管理の仕事をするようになっていた。

造船の採算が悪い中で黒字受注をするための設計時数の操作など自分としては余り遣り甲斐の感じられない仕事が多くなっていたので、一度しか生きられない人生をこんな風に過ごしていいのか、もっと自分を活かすことの出来

**特集:私の TURNING POINT**

ることがあるのではないだろうかとの思いを強めていた。

子供が東大に入学したことで、子供の教育に対する自信が深められ、以前から考えていた自分の夢「将来は子供の教育に貢献したい」を実現するため、会社に辞表をだした。

その直後に日立造船人事部から、技術系教育強化のため技術系出身の教育担当者が必要なので来てくれないかとの誘いがあった。もともと「教育」には関心があったし、教育業務を経験することは、将来の自分の夢を実現する上にもプラスになるのではと思います、この誘いに応じて日立造船人事部へ転職した。

人事部在職中には新入生教育や部長研修会などの講師に來られた会社幹部の講話を間近に聞いて感銘を受けたり、採用の関係で当大学に寄せて貰ったことがあった。

私が 54 才になった時、30 年勤続者に与えられることになったリフレッシュ休暇をとり、家内と北海道へ 1 週間の楽しい旅行をした。ところが旅行を終えて会社へ出るとリストラのため、採用・教育関係業務を関係会社へ移すのに伴い、私はその関係会社へ転職させられることになっていた。

会社の指示どおり転職し、そこでそのまま勤めていれば 60 才までは働けたのであるが、関係会社に転職してまで教育業務を続ける気がしなかったので、一応転職したが、業務の円滑な引継ぎに必要な 3 ヶ月間だけ勤めて退職した。

### —退職後—

これまで私は比較的恵まれた人生を送らせてもらったので、退職後は自分より恵まれない境遇の人達のために少しでも役立てるように生きようと心がけ、現在は「悠学舎」という学習塾をしながら、町会長や保護司などのボランティア的な活動を通じて地域社会に貢献しつつ、マイペースの生活を楽しんでいます。

大学33期 高畑 良

# 私のturning point

—

早いもので大学を卒業して14年余りが過ぎ去っていました。同窓会誌から本題の寄稿の依頼を受けまして、振り返るにはちょうど良い時期かなとも思ってお引き受け致しました。

私の場合、12年前に転職した時が私のturning point Iであったと思います。それは、今になって振り返ると確信できるものでしょう。そして、今を私のturning point IIにしたいと思っています。10年後、思い返してそう言えるよう今後10年を如何に過ごすかが今の課題です。まだ、10年有と考えると、もう10年しかないと考えるべきなのでしょうね。

## —turning point I—

「転職することも考えてみては…」という先生の言葉をいただ

もやらぬことだったからです。当時は、バブルに始まった転職ブームのかけらも見えなかった時代です。就職して広島県因島市に配属になった私もここに骨をうずめることになるのかなとも考えていました。確かに新造船は撤退し、私の仕事も新規事業企画になっていました。新聞紙上では、会社の厳しい経営状況が毎日のように掲載されていましたが、私自身仕事は結構楽しく辞めたいと思った事はありませんでした。

結局、帰りの新幹線に出した結論を独身寮の3人の同僚に報告した時、彼らの第一声は「お前が俺らの転職願望をひきとめとったんちゃうの!!」と爆発。理由を聞かれて「じつと耐える事が美徳と思っていたが、それより転職する方がしんどいぜ。」とこれまでの保守的な自分を変えることにしたことを説明。結局、

—家族との休日—

いたときは、絶句しました。造船会社に就職した私には、思い

3ヶ月後4人そろって仲良く退職。そのおかげ?で会社は立ち

直りました。

さて、先生のご紹介をいただき、めでたく大阪の軸受メーカーに転職しました。仕事は研究職。因島での新規事業の仕事の経験を少しでも生かして新製品の研究開発を期待されたようです。新しい自分のマイペース？を模索しながらの歩みです。とにかく、毎年自分なりの結果を出せるようにしたいと思いました。実はその年は、超電導フィーバーの年で私の研究アイテムにも超電導体の上に永久磁石を浮上させる新しい超電導磁気軸受の研究に着手しました。日本でも研究者はまだ少なく学会発表と特許出願が私のアウトプットでした。その後、超電導体の特性向上もあいまって、世の中でも軸受への応用への期待がさらに高まるようになりました。出した論文をまとめ機械工学科で学位をいただきました。また、この軸受を電力貯蔵用のフラ

イホイールの支持軸受としての実用化研究が通産省関係の国家プロジェクトに採用され、5年の受託研究が本年度で修了します。

### —turning point II—

近年、企業の研究も基礎研究から実用化研究への重点指向が進んでいます。更に、開発期間が圧縮され、1～2年後にアウトプット(これも商品化)が要求されます。如何に商品にするか！が私の課題です。プレイングマネージャーとしてどのように進めて行くか請うご期待！

最後になりましたが諸先生方にも大きなご支援をいただきましたことこの場を借りてお礼申し上げます。

特集:私の TURNING POINT

## 紀州南国パラダイス

— 毎日定時・休日無出勤 —

大学40期 藤浪 宏典

みなさんこんにちは。94年3月に修士課程を修了した、藤浪と申します。実家和歌山のお寺に引きこもり自転車通勤で15分というとても便利な会社、島精機製作所に勤務してもう5年半になります。セーターなどを編む業務用横編み機を製造する会社で世界シェア80%。そのほかにはCGシステム、NHKの大河ドラマ『元禄繚乱』のオープニングは我が社のシステムで制作されたものです。私の仕事は、部品加工の工程管理と社内改善提案の審査です。工程管理と

言っても難しい仕事は殆ど係長がやって下さるので私の仕事はもっぱら工場内の散歩と加工担当の方とのお喋りです。現場の方々は皆ざっくばらんで、時々きついなあと感じることもありますが、親切な方ばかりなので急ぎの仕事などもお願いし易く苦勞を感じることはあまりありません。現場はきっちり5時で皆帰ってしまうので、私も大抵5時半には家に帰っています。船舶工学科の院卒としてはかなり優雅な生活でしょう？膨大な余暇のお陰で、同期の友達と英

## 写真2

—坪郷先生とコーイチ君

3人揃って Pinky&Extra '94.3—

会話に行ったり、お茶を習ってみたり、プールに行ったり、合気道をいっちょかましてみたりといろいろやってみました、さすがにくたびれて今はプールに行くぐらいです。それでも、ほぼ週一ペースの飲み会は着実にこなしているあたりは学生の頃から全く進歩なしという感じです。同期会の忘年会や、新年会などは我が家の本堂で大宴会をしますが、良き上司、友人、同僚に囲まれ楽しく幸せな社会生活を送っています。海がすぐ近くにあるので今年の夏はウインドサーフィンに明け暮れ、まっくろけに。サラリーマンとは思えないような風貌になり果てました。このような、調子なので大学同期の独身同盟の皆様ご安心下さい。私はあなた達の仲間です。といいつつ出し抜く計画は着々と進行して居りますのでご注意を。

さて、「私のターニングポイント」っていうお題を頂戴していますが、まだ弱冠 32 才、苦勞らしい苦勞もしておらず、ターニングポイントって言うような大仰な物とは多分無縁な私です。しかし、自分の今置かれてる環境、周りの人々、両親、家族、上司、先生、友人など、日々接する方々から受ける教示や経験はそれぞれが小さなターニングポイントだとも思えます。特に我が家のちょっと変わった家庭環境は多くの方と出遇い、学ぶのに一役買っています。その環境とは！！

私のうちは浄土真宗のお寺なのですが、それとは別に、『和歌山内観研修所』という研修施設を両親が開設しています。『内観』という言葉をご存じでしょうか。時々新聞などにも出ていますし、『致知』という経営者の思想や苦勞話を重視しているビジネス誌にもよく取り上げられているのでご存じの方も多いのではと思います。『内観』とは自分自身を客観的に見る訓練をすることにより精神的成長と充実を図る(簡単に言うと細かいことにイライラしたり腹を立てたりせず、感謝の心で生活できる精神的大人になることだと私は勝手に理解しています。)ための一つの方法です。具体的には自分の身近な人(最初は母親からはじまります。)に「してもらった事」「して返した事」「迷惑かけたこと」の3点についてのみ年代を2年ごとぐらいに区切って集中して思い出します。こんな簡単なことと思うかもしれませんがこれが結構難しいのです。考えるだけなので、いつでもどこでもしかもタダで出来るのが特徴ですが、一週間続けてやる『集中内観』という方法が初めは一番簡単です。学校の生徒指導、企業の人材育成、刑務所での受刑者の矯正、病院での心理療法治療としても使っている所もあります。また、キリスト教の修道女の方などいろんな宗教の方が自分の修行のためでしょうか、お寺である我が家にいらっしゃるのは面白いなあと思います。もちろん『内観』自体は仏教とはあまり関係がないのですが、海外でも、麻薬患者のリハビリや、

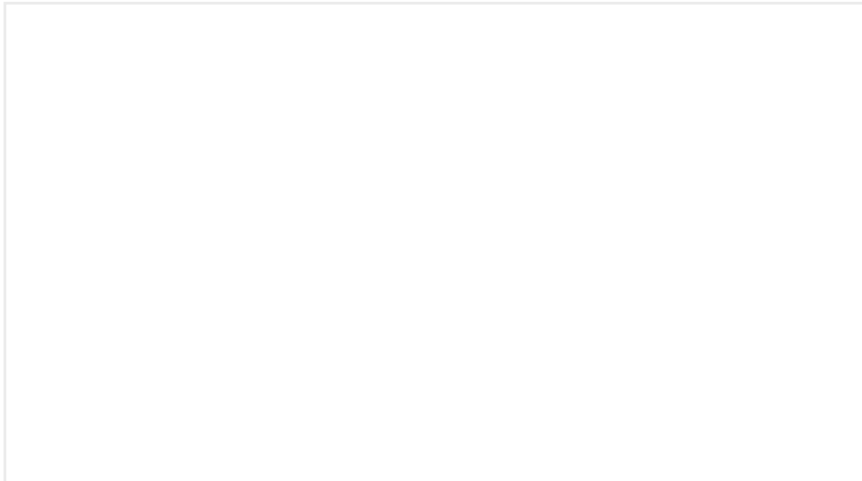
ビジネスマンのヒーリングなどに活用しているところもあるとか。

先日 25 才新婚はやほやの幼なじみの男の子がこんなことを言っていました。「結婚式前日、お母さんに最後の弁当を作ってもらったんやけど、食べてたら、泣けてきた。みんな居て恥ずかしかったけど泣いてしまった。今まで世話になったこと一つ一つが頭の中に吹き出してきて、それ以来もう親に頭あがらん。一緒に仕事してたら『くそっ』て思うこともあるんやけど、言い返されへん。」と。彼はお父さんと一緒に魚屋さんを営んでいます。「結婚前日は大好きなそばろ弁当を作って」とお母さんに頼んでいたそうです。良い話でしょう？彼は多分小学生の頃に騙されて一週間内観をただけだと思えますが心の中では生きてるんですね。もちろん彼の両親の人柄も大いに関係あると思えますが、すいません。脱線しました。

で、そのような関係で年に一度「心のシンポジウム」と題し和歌山市や教育委員会、新聞各社、地元マスコミの後援、

企業の協賛を頂いて『内観』と心の問題を考える講演会を主催しています。そんなことで、たくさんの人と出遇い、その都度折に触れ私の生き方を軌道修正して頂いたり、自分で気付かないことを教えて頂いたり、どう曲がったのか分からないほどの転機を与えられています。私が勤める会社から協賛を頂き社長が聞きに来て下さったときには非常に恐縮をしました。その後の私の仕事ぶりが悪いので、残念ながら我が社の社員研修には『内観』は取り入れられていませんが…。

調子に乗ってつれづれなるままに筆を走らせているとお約束の文字数になってしまいました。まとまらないことで申し訳ありませんが、現在の私は多くの方々に支えられ、育てていただいているなあということが改めて実感できました。このような機会を与えて下さって有り難うございます。と、優等生っぽいご挨拶で締めくりたいと思います。同期のみんな機会があったらまた飲みましょう。では、さようなら。



— テニス仲間と(左手前本人) —  
'99.11

# 自ビールをつくりませんか

大学8期 大野茂樹(同窓会長)

今年は西暦2000年で New Millenium とか言うそうですね。私は1960年の卒業で、今年はちょうど40年になり、まあ切りの良い年になります。造船所に入って設計を振り出しに造船不況の荒波の中を漂い、終わりの頃は橋梁などの陸上関係も経験して昨年サラリーマンを卒業しました。

まだまだ老け込む年ではないので何か面白い仕事はないかと思っていたところ、幸い麒麟ビール・神戸工場の「マイスターアシスタント」に採用されて、昨年夏以来「ビール教室」の実技のインストラクタという楽しい仕事を始めました。

この教室は、一般の人を対象に、本物の材料を使い、本物と同じ工程で本当のビールを「手作り」する、世界でただ一つの楽しいものです。そこで麒麟社のご了解を得て、皆さんを「自ビールづくりの世界」へご案内しましょう。

## ● ビールとは？

たいがいの人は泡の立つ少し苦い酒だといいますが、酒税法によると「麦芽を主原料とし、定められた副原料を一定量以下含み、ホップを加えた醸造酒」がビールです。ご参考までに「副原料」は米・トウモロコシなど(ビンや缶を参照願います)で、我が国では麦芽の割合が原料の2/3以上であれば「ビール」として認められ、これより副原料が

多くなると雑種の内の「発泡酒」とされます。(発泡酒はビールに比べて税金が大変安くなります。)因みにドイツでは麦芽とホップ以外のものを入れると「ビール」とは認められないそうです。(日本でもドイツタイプのビールがあります。)

また「ホップ」は、麻科の雌雄異株、多年性宿根蔓性植物の雌花ですが、受精していない「処女花」が使われ、独特の香りと苦みがビールらしさを出します。

## ● ビールの製造工程

最近いわゆる「地ビール屋」が沢山あり、レストランのガラス窓越しに「ビール工場」が見えたり、麒麟を始め大手の会社も積極的に工場見学を受け入れていて、ご覧になった方も多いでしょうが、概略の工程をご紹介します。

**i** 製麦:大麦から麦芽を作る。(詳細省略)

**ii** 糖化:主・副原料を糖化槽/釜に温湯と共に投入して麦芽に含まれる糖化酵素・蛋白分解酵素などを活発に働かせて澱粉や蛋白質を(麦芽)糖やアミノ酸などに分解する。

酒類は一般に酵母(East)が糖分を食べてアルコールと二酸化炭素を出して作られるので、澱粉のままではアルコ



ールが出来ない。

この時の温度と時間の関係はビールの種類やメーカーによるノウハウで、またその管理の程度がビールの出来に大きな影響を与える。

iii 濾過：糖化の終わった液(もろみ)を濾過器で絞って「麦汁」にする。

この際もろみを絞ることを「一番絞り」と言う。一番絞りを取った粕には未だ沢山のエキスが含まれているのでこれに湯を通してエキスを回収する。(二番絞り)因みにキリンの「一番絞り」銘柄のビールは、字の通り一番絞り麦汁だけを使った贅沢なビールです。(エキス分の残った粕は他に転用しません。)

iv ホップ添加・煮沸：濾過した麦汁にホップを添加して煮沸する。煮沸の主目的はホップの香り・味を付ける、ビール色を付ける、酵素や雑菌を死滅させる、不要な蛋白質を凝固させて液を清澄させるなどと言われている。

ホップはビールの種類によりその種類や量が違い、また添加を2～3回に分ける。

v 麦汁冷却・酵母添加：煮沸の終わった麦汁は、定められた糖分濃度に調整した後濁りを取り、酵母の働きやすい温度(10度以下)に急冷して発酵タンクに投入し、酵母を加える。この温度や酵母の種類・量はメーカーの高度なノウハウで、ビールの出来具合を左右する。

vi 主発酵：発酵タンクに入り、酵母を添加されると初めてビールの素になり、これから約1週間酵母が糖を食べてアルコールと二酸化炭素を出して発酵し「若ビール」が出来る。

vii 貯蔵(後発酵/熟成)：若ビールが出来るとタンクの底に沈んだ酵母を取り除き、約2ヶ月間密閉状態で貯蔵する。この間に液中に少し残った酵母の働き等でさらに発酵・熟成が進み、また二酸化炭素が液に溶け込みおいしいビールになる。

viii 濾過・ビン/缶詰：熟成の済んだビールは特殊なフィルターで濾過されきれいに透き通ったビールが完成し、ビンや缶・樽等に詰められて出荷される。

この濾過に使う濾材は大変目の細かいもので酵母や濁り成分などを一切通さないで、熱処理で殺菌する必要はない。従ってこのごろのビールはどのメーカーのビールも「生ビール」です。

## ● ビール教室

ビールの工程説明が長くなりましたが、本題の「ビール教室」のご案内をします。

これはキリンビール神戸工場が開講し、一般の方々の参加(有料)で本物の材料を使い本物と基本的に同じ工程(温度・時間)で本当のビールを「手作り」してもらおう大変ユニークな教室で、現在世界で唯一のものです。

もともと、上記のようにビールは完成まで約2ヶ月かかるので、お客(生徒)が全工程を自分ですることは出来ません。そこで教室では、「仕込み工程」(上記ii～v)を1日のコースでやり、後の工程は工場の本職が面倒を見て、6週間後に完成したビールをお渡しすることになっています。

1日のコースは、朝9時から最初1時間マイスターによる座学の後10時から16時半頃まで殆ど休みなして実技があり、ビールの「仕込み工程」を体験します。

作るビールは、キリンの代表銘柄の「ラガー」を始め通常12種類のメニューが用意されていて、参加当日に選択します。この中には市販されていない種類も沢山あり、まさに「自ビール」を作ることが出来ます。

教室は、一般向けには毎週土・日(他に特別コースが火曜日)に開かれていて、毎回5チーム(1チーム4～6名位)ずつ参加できます。(最近好評で抽選あり)このうち最初の糖化工程は、主・副原料を深鍋に入れ、定められた温度と時間を守って絶え間なく掻き混ぜながらガスの火を調節し

て温度を変えたり、また二つの鍋を合わせたり・分けたりとまさに手作りの醍醐味が堪能できます。

私達「マイスターアシスタント」は各チームに1名ずつ付いて、温度保持等技術的な指導、時間等工程管理やキーポイントの作業をしたり、またお客とビールに関するいろいろな話をしたりして1日楽しくお付き合いをします。

そろそろ紙数も尽きてきましたし、あまりなにかもオープンにしてしまうと後の興味もなくなるので今回は取り敢えずこれくらいにしたいと思います。

ただ、宣伝めきますがこれは趣味の店などで売っている「ビールの素」で家庭で作るイミテーションと違って前記のように「本物のビールの手作り」が体験できるわけでこの教室開設以来2年半・約7千人の卒業生の評判は極めて良

く、リピーターも多く、またこの体験によって今まで「取り敢えずビール」と何となく飲んでいたビールのうまさや奥深さを再認識したとの感想が多く聞かれます。

同窓生の皆様にも是非ご体験をお奨めします。

申込み等については、

インターネット

<http://www1.kirin.co.jp/park/area/kirinkobe/index.html>

や、電話(078-986-8001)でどうぞ。

## △ ▼平成 1 1 年度分会費納入のお願い▼ ▲

同窓会費をまだお送りいただいていない方はできるだけ早く同封の振込用紙にて納入下さいますようお願い申し上げます。(平成12年1月末日未納の方には請求を同封しておりますのでご確認下さい。)

毎回催促がましくご請求申し上げ誠に心苦しいのですが、何分本会は皆様方からの会費のみで運営いたしております。なにとぞ御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「私の turning point」の課題で一文を寄稿せよとの要請がありました。しかし自分には誇れるような人生の転換点もなく皆様に紹介できる程のものはありませんので、独断と偏見に満ちているかもしれませんが、環境管理の業務経験に基づき主題の件につき感じたことを述べたく思います。

1999年の世界人口は60億人に達し、2050年には89億人になることが予想されています。環境問題発生の本質的基因は人口増加にあると考えます。人口増加が今後このまま続けば当然の結果として「食料問題」、「エネルギー問題」、「資源問題」、

「平和問題」を惹起します。国の人口問題は家庭のそれと同じで国家・社会の繁栄を願うと一定の人口増加が必要となりますし、人口問題への取組は各国・各地域それぞれの国柄、宗教、事情があることでもあり議論のしにくい領域の課題です。そこで人口増加が進行することを前提にした今後の対応策が問われることになります。この解決策の一つが1992年にブラジルで開催の「地球サミット」でのキーワード「Sustainable Development」(持続可能な開発)という概念の導入です。経済活動を行う場合には必ず環境保全を配慮するという「経済成長と環境保全の両立」の必要性が提唱されました。

環境保全とは現存の生態系を保全することであり、現存の生態系は生命の起源から約35億年間進化をはかりながら形づくられたものです。人間の有する遺伝子を調べると地球上のあらゆる生物と類縁関係にあり、動植物のそれを共有しているものが多く、特にチンパンジーとは

99%同じだと言われております。地球の生命圏は祖先を同じくする生物のDNAによりネットワークの様に結びつけられており、DNAを介して自然と結ばれております。

DNAネットワークを結ぶ情報伝達手段として、また情報収集メモリーとして今後はコンピュータの活用が目されます。コンピュータは今や社会の基幹をなす迄に発達し、Virtual世界とActual世界の境界を失くす程に普及していることはご存じの通りです。

西欧では「自然を克服する」という考え方の基に科学技術の進展がはかられ、大洋横断、産業革命、アポロの

月着陸等々が行われてきましたが、Economy と Ecology の語源を辿ればギリシャ語の Ekos (Household:家事)で物事の秩序を守るという意味からきており、Economy と Ecology の両立をはかっていく意志と方法を考えていかねばならないことを示唆しているのではないかと思います。

我国には昔から「草木国土悉皆成仏」という考え方が脈々と流れており、自然との共生をはかりながら生活してきた歴史があります。この意味からも日本の場合、環境問題への対応の仕方として取組みやすい資質を備えているのではないかと考えます。

2000年からは従前のような人間を中心にして環境を考えるというよりも自然の中の生態系を構成する一要員として人間を捉え、地球環境への負荷を少なくして、自然との共生をはかった行動をとるライフスタイルを確立し、産・官・学・民すべてが一体となって具体的に実行していく時代になるものと考えます。

## 環境問題から見た 2000年代へのおもい

大学10期 須藤 邦彦

正月のNHKTVを見ておりましたところDNAの組み替え操作によりこの世に存在しなかった紫色のカーネーションが作れたとか、虫の嫌がる葉のDNAを野菜に組み込み虫のつかない野菜が栽培出来た等の紹介がありました。人口増加に伴う食料不足・資源の枯渇への対応策としてDNAの活用は心強いものがあります。

今後ますますDNAの研究が進み35億年かけて形づくられてきた現存の生態系の中にこれまで存在しなかった人工的に強制した新たな生物を創り出すことが(100年後はこのことも進化の一部であったとされるかもしれませんが)あらゆる分野で進めば生態系のバランスはどうなっていくのでしょうか？ それはそれでバランスが保てるのでしょ

か？ 新規生物を創り出す毎に環境(生態系)アセスメントが必要とならないのでしょうか？ 環境ホルモンや地球温暖化問題と同様、人間の気付かない間に人類の生存を脅かす方向に進展していくのではないのでしょうか？ このような疑問点を抱きつつ2000年におもいを馳せた次第です。

環境(DNA)と情報(コンピュータ)で代表される時代の到来に際して科学技術の益々の発展を願うと共に、常に問いかけ続けていく必要があります…

”Was ist der Mensch?”と。

学生時代の哲学の講義を思い出した、千年紀を迎えた新春の一日でした。

## 訂正とお詫び

同窓会ニュース”ふね”31号 P.22 におきまして

**西田 隆司君は平成9年度学科賞を受賞.**

**奥村 英晃, 阪口 泰規の両君は日本造船学会奨学褒賞を受賞.**

とありましたが,

**阪口 泰規君は平成9年度学科賞を受賞.**

**西田 隆司, 奥村 英晃, 阪口 泰規の三君は日本造船学会奨学褒賞を受賞.**

の誤りでした. 訂正の上お詫び申し上げます.

アカデミックコラム

## 挑戦者たちの黄昏

—アメリカ杯ヨットレースの—風景—

海洋利用システム講座 田原 裕介

その150年近くの歴史のなかで、アメリカ杯が最初の勝利国、アメリカの地を離れたのはほんの2度しかない。最初は83年、オーストラリア国民に新たな休日をもたらした歴史的勝利。そしていったんカップがアメリカ本国に奪還された後の95年、ニュージーランドの圧倒的勝利。どういう訳かこのレースでは、南半球にツギが向く。私がアメリカ杯ヨットレースの存在を知ったのは、オーストラリア勝利の翌年、西岸・パースを訪れた時だった。それから実に16年後、2000年1月のニュージーランド・オークランドはアメリカ杯レース開催に沸いている。オークランド国際空港の前で、私はダウンタウン行きのバスを待った。夏の盛りでありながら少し冷気を含む風。微かに漂う干草の匂い。南半球の爽快な陽光。さて、私が向かうニッポンチャレンジ・ベースキャンプでは、撤収作業がほとんど完了しているらしい。...

莫大な経費と緻密なシンジケート組織法、熾烈なレース、そして何より歴史的伝統に裏付けられたこのヨットレースは、やはり世界最高の権威を持つと考えられている。参加を意図する者をそのプライドと格で容赦なく区別し制限するルールなど、一般的なスポーツイベントとは明らかに一線を画そうとする姿勢がある。参加しますよ、という意思表示のためだけに必要な数千万円のエントリー。当初このレースは、富裕層の人間の意地と心意気だけを試すものだった。

ちょっとした様変わりが起こったのは80年代であろうか。

本格的な科学技術とコマーシャルイズムの導入が始まった結果、ヨット自身はとんでもなく高性能で高価格なレーサーとなってしまった。裕福な個人が一人で旗を振っている場合ではなくなり、強力なシンジケートが必要になった。まずチャレンジャー(挑戦者)を決定するレースが延々と続き、最後に残ったチャレンジャーのみが前回の勝者、すなわちアメリカ杯保有者と対決できる。実はその最終戦だけをアメリカ杯レースと呼んでいる。このレースに日本が初めて参戦したのは92年で、当時私はアメリカにいた。大学院博士課程に在籍し、計算流体力学(CFD)を研究し、レースが行われた頃はちょうどドクターを取る直前だった。

私のニッポンチャレンジ・シンジケートとの付き合いは、かれこれ5年になる。ニッポンチャレンジは、現在も入れて通算3回組織されてきた。92年と95年のキャンペーンで、ともにチャレンジャー決定戦総合4位。すなわち敗北である。私は94年に本学に赴任し、その翌年から技術委員会メンバーとなり、専門のCFDを用いてレース艇性能解析を行った。現在進行中の第30回アメリカ杯へ向けてシンジケートが発足したとき、私の仕事はCFDの設計応用へ、主にアペンデージと呼ばれる船底付加構造物の設計に移行した。

シンジケート・メンバーの要求は、相手がプロ/学生を問わず至って実際的かつ厳しいものである。設計フェーズ

が大詰めに至った1年ほどの間には、ほぼ2週に一度の割合で東京から人が来た。ただ有益な結果だけを要求しに。そこでは私の共同研究者たる学生諸君が大健闘した。トロいことをやっていると容赦ない叱責が、私はともかくシンジケートのメンバーから飛んでくる。良くも悪くも、彼らはシンジケートから一目置かれた。イベントあるごとに優遇までされた。学生の身分でそこまでやってもらえる例は限定されているし、もっともあまりないことだ、と他のシンジケート・メンバーから言われた。本当に彼らはよくやったと思う。ちょっと可哀そうなくらいに。

そして2000年の1月末、私がハーバー近傍のバス停に降りた時、ニッポンチャレンジ・ベースキャンプは本当に空っぽになりつつあった。第30回アメリカ杯・チャレンジャー決定戦で、我がチームは総合4位。今回もアメリカ杯本戦への道は閉ざされた。クルーの多くを含め、帰国したメンバーも多いらしい。キャンプにいたテクニカル数名とオフィスを出、賑やかなカップヴイレッジを抜け、レース関係者専用のクラブハウスに向かった。テラスのちょうど対岸に、我が

チームのベースキャンプがあった。並びには他シンジケートのものが数多く連なっているが、その殆どは既に撤収が進み人影も少ない。今だ不夜城の様を見せるのは、現在チャレンジャー決定戦の最終戦を戦うイタリアとアメリカ、そして現アメリカ杯保有者のニュージーランド・シンジケートのみである。巨大なエネルギーと夢がオークランド沖に消えたあと、そこにあるのはオークランドの見事な黄昏だけなのだ。

もうだいぶ立ち直ったけどな、でもここまでだったかと思うとやっぱりね。悔しくてやりきれない。

そりゃまあともかく、この風景はこんなに綺麗だったんだな。今まで気づく時間も余裕もなかったもんな...

92年の日本初参戦よりレースに関わってきたK氏は、暮れ行くハーバーを眺めながらテーブルの対面でビールを飲んでいる。10年以上の人生を、このレースと共に歩んできたのである。私より若干若い彼は、ベースキャンプのテクニカル・ヘッドとしてグループを指揮してきた。彼の人生と命をかけた大仕事は終わった。無数の光点が散らばる夕

—AUCKLAND—

暮れのハーバーに、彼はすっと目を向ける。恐らく、さらに遠くの何かにも。

アメリカ杯レースが始まった頃、日本は黒船来航に驚愕した。それから今日までの日本の歩みを考えれば、アメリカ杯の歴史には計り知れない凄みがある。その権威に挑戦することは、世界を相手にすることとあまり区別がつけられない。少なくともアメリカ杯を知り、もしくは本気でこのレースに関わっている人間たちにとってはそうである。そんな壮大

な挑戦を試みた一人のヨット・エンジニアが私の前にいた。このハーバーのどこかで、彼が命がけでチューンアップしたレーサーを命がけで操船したクルーたちも、同じ黄昏を見ているに違いない。同様にレースから消えていく、他シンジケートの人間たち、レースにおいて危険なまでに純粋に、人生を賭した者たちも。アメリカ杯レースとは、そんな人間たちが築いてきた歴史なのだと思う。

### 〈同窓会ニュースふね 33 号への原稿募集〉

自由課題： ご自由なテーマでお書きください。

規定課題： 「忘れられよか水槽実験／材料試験」

分量： 2000 字程度を標準としますが、柔軟に対応します。

- ・原稿は、郵便(原稿用紙やフロッピーディスク)、ファックス、電子メールなどでお送りください。
- ・写真やイラストつきの原稿も大歓迎です。その場合、郵便で原本をお送りください。

締めきり： 平成 12 年 5 月 31 日(水)

宛 先： 〒599-8531 堺市学園町 1-1

大阪府立大学工学部海洋システム工学科気付 船舶工学科同窓会事務局

TEL/FAX. 0722-54-9914

E-mail ohta@marine.osakafu-u.ac.jp

## 同窓会名称についてのご意見

同窓会名称変更についてさまざまな議論が続いています。

今回はふね32号のために寄せていただいた原稿と、同窓会用メーリングリスト KAMOME に投稿していただいた声から主なものをここにご紹介します。

★では初めに山路前会長から寄せられたご意見です。

### ■ 提言 - 同窓会の改称に新しいパラダイムを! -

大学6期 山路 隆一(前会長)

「船舶工学科同窓会」の改称検討について、海洋システム工学科に変わって以来、理事会において継続的に検討し会誌等で報告され、会誌第8号で改称について会員のご意見を募っていることから、諸兄は周知のことであり、また本11年度の理事会において名称変更を行うことに決定されましたが、一理事としてだけでなく一会員として本誌を通じて名称のみの変更に対する意見を述べ、新しいパラダイムの樹立を提言させて戴きたいと考えます。

#### 1. 会名のみ改称に反対

理事会で改称の必要性に関し、海洋システム工学科を既に修了された方があること、この方々の大部分が同窓会に入会されているが違和感があるため学内理事の入会勧誘に苦労があること、工専造船科修了者の現在までの感情論の有無、改称を仮定した場合の名称の困難さ等々、様々の議論が交わされてきましたが、具体論以前の考え方に根本的な誤謬があるのではないかと思考するものであります。

即ち、大学において「船舶」では今後の社会的要請に沿わないなど諸般の情勢判断から全国に先駆けて、船舶工学科4講座から新たな海洋システ

ム工学科2講座「海洋環境計画」「海洋利用システム」(7研究室)に变革されたのであり、この時点で「船舶」は消滅していることが等閑にされていないでしょうか。

歴史的に見れば工業専門学校、大学及び大学院において名称・内容に若干の変化がありはしたが、造船工業技術を中心として船舶についての研究・研鑽がなされてきた一貫性があり、これが現同窓会の最大の拠り所であると確信します。

しかし、新生「海洋システム」は「船舶」とは少なくとも過渡期を過ぎれば全く別個の教育・研究機関に発展するわけで、両者を結び付けるものは歯に衣

を着せぬ不躰な表現ではあるが、旧来の施設と現教職員のみであり、同窓会においてまで包含しようとするのは我々の妄想であるとしか言えず、「海洋システム」を目指す学生・研究者のみなさんにとっては寧ろ非常な迷惑ではないでしょうか。

勿論、海洋システムの修了者を本会には迎え入れないと言うのではなく、賛同を得られる方々は大いに歓迎するべきで、この趣旨から会則の部分的な改訂も必要であります。本来異質のものを名称を変更することのみで糊塗するのは本質的に誤りであると言わざるをえません。



## 2. 新しいパラダイムを

海洋システムの修士生諸君の入会に違和感があり、勧誘に苦勞ありと前述しましたが、その原因は現同窓会の目的にあるのではないのでしょうか。会則に「会員相互の親睦並びに教室との親密な連携をはかり」、目的達成のために「必要と認める事業を行う」とありますが、これは上述の一貫性を暗黙の了解事項としたもので、これでは海洋システムとの結びつきを見出せず、従って海洋システム工学科の諸君の理解と賛同を得ることば到底出来ないでしょう。

即ち、共に共感し共有できるパラダイムが必要であると考えます。

例えば、海洋国日本で船舶・海洋システムに関係する本会が海外への情報発信の源となる活動を行うことです。本会が母体となるシステムを作り運営して、海外の関係機関と協同して夫々の研究成果を親しみやすく発表する、協賛される外部団体の協力を得て東南アジアの留学生を招聘する、また発展途上国へ会員を派遣し技術移転を計ることもあるでしょう。

要は時期や研究内容は異なるが夫々の会員が持つ力量を発揮する場を共感・共有できるパラダイムを樹立し、これを目的にするべきであると考えます。

以上申し述べた上「船舶工学科同窓会」の名称関係だけを改訂するのではなく、会員諸兄に荒唐無稽な例を挙げ無礼を申し上げましたが、諸兄のご意見を活発に交わして戴き、是非とも目的として相応しい新しいパラダイムを樹立して、来世紀においても適用する結論と新生の同窓会を産む方向に歩み出して戴きたいと念願する次第であります。

★次は KAMOME から、まず城野さんからのご意見が出されました。

## ■ 同窓会は誰のものか

大学8期 城野 隆史(理事)

ここ数年、理事会においては同窓会の名称を変更する件について議論が続いております。「海洋システム工学科」になってからの卒業生には「船舶工学科同窓会」は馴染まないところがあるので変更したいという大学側の提案は尤もなことと思うのですが、いざ変えとなると、いろいろな案が出てきて決めかね、毎回次回持ち越しになるのです。

議論の焦点は、「船舶」の字を無くしてしまっても良いかという事にあります。「船舶」の文字を名称のどこかに残すもの、現在の学科名に変更するもの、ちなみのある名称(「モス'かもめ会」、「船と海の会」、「Marine」など)に変更する案に大別されます。結局学内理事の提案を待って次回決定という事になりました。

名称をずらりと横ならべにして議論していたのでは、決め手が得られず、結局投票で決めざるを得ない、いわゆる「美人コンクール」式決定法に従わざるを得ない事になるでしょう。

そこで小生の考えを述べてみたいと思います。小生は現在の学科名「海洋システム工学科同窓会」を推すものですが、その理由を要約してみました。

### 1. そもそも同窓会とは

社会学者によれば人間の作る集団

は2つに分類されるといいます。即ち、Gemeinschaft(共同社会;自然的・直

接的な結合に基づく集団)と、Gesellschaft(利益社会;人為的・間接

的な結合に基づく集団)です。前者は、村落共同体のようにオギャーと生まれて以来属する集団、後者は会社のような追求目的をもつ移動可能な集団が相当します。

さて、私は、同窓会は Gemeinschaft だと考えます。船舶なり海洋システムなりの学科を卒業した者は自動的に同窓会会員であり、またやめようといっても卒業したという事実がある限り辞めようがありません。

同窓会には除名処分というのは、原則的にはないのではないのでしょうか。

このような集団に出身母体の名前をそのまま冠するのは自然のように思います。「船舶工学科同窓会」というのは出身母体の名をとったもので船舶関連業に就業している者の集まりを意味するものではありません。従って、出身母体の名前が変われば、同窓会の名前が変わるのは自然の成り行きです。

船舶関係以外で働いておられる方の割合がいくらであるか、名簿を勘定してはおりませんが現在の同窓会費納入率は60%強(悪いときは46%、4

7%がある)だそうで、同窓会が卒業生全体のものとして意識されるようにする事が大切だと思います。

## 2. 同窓会の継続性

同窓会の中には、「何年卒同窓会」と言うような1代限りの同窓会があります(これを戦友会式同窓会というそうです)。しかしここでの対象は、卒業生全体の同窓会であり、継続性の維持がとめられます。そのため昔のままの「船舶工学科同窓会」では都合が悪い。それでは「船舶・海洋システム工学科同窓会」と歴史経過を並べた名前にしてはどうかというのも一案のように見えます。

しかし、「船舶・海洋システム工学科」というのは府立大学のなかにはありません。紛らわしい名前にするよりも、変転は世の常、名前も変化させてよしいというのが小生の意見です。

「船舶工学科」の伝統を「海洋システム工学科」に引き継ぎ、発展させるように back-up する事が大切でしょう。

## 3. 提案

継続性の維持に関連して思いついた事ですが、同窓会誌にその年の卒業生全員の「抱負・所感・反省・要望……その他なんでも」を掲載してはどうでしょう。

新会員がどんなことを考えているのかを知り、現在を理解するのは同窓会にとって大変有用です。昔を語るのも歴史を知る意味で重要ですが、現実の若者の世代に繋がりを持てる事が、この種の同窓会の強みなのですから、九州大学の船舶同窓会誌「吾」はこのようにしていると思いましたが、真似しても良いではありませんか。

### 追記:

造船に思いいれのある方は、どうぞ関西造船協会にご加入下さい。

(ただし、会費を2年滞納すると除名になります。これは関西造船協会は目的を持ったGesellschaftであり当然の事と思います。)

## ■ 同窓会の名称と異見

大学 13 期 佐伯 洋

同窓会の改称の議論は、大分長く続いているようです。

会議の議題が、「会社の販売不振をどう打開するか」などの真に重大で真剣な意見が求められる議論の場合には、出席者の発言は意外に少なく、一方議題が「この会議室の愛称を決めよう——」となると、議論百出でなかなか決まらない、に似ています。決まる結果に対して重大な責任を負わなくても良いとなると、インスタントな意見が増えます。

こんな場合には、リーダーの「この名称に決めましたので、今後よろしく」、の一方的押しつけが良いと思います。或いは、「議長一任」であっても良くはありませんか。多数決で決めるのが、民主的とは限りません。例えば 60/40 で議論を決したとしても、

40パーセントの不満は必ず残ります。

あまり非常識な名称でない限り、どれに決まっても五十歩百歩ではありませんかな。

尚、私の戸籍上の名前は「佐伯ひろし」ですが、関東へ出張の時には「森口ひろむ」、海外へ出張の時には、「ジャック・スキー」です。相手と時に合わせて違った名前を自由に使って楽しんでいます。同窓会の名称一つ決められない様子を見ると、皆さんにはどうやら時間が無限にあるようで、まるで暇人クラブの寄り合いみたいだ。

★KAMOME での活発な議論は続きます。会計理事の、切実(?)な声を次に……

## ■ —会計担当理事より—

大学 21 期 池田 良穂(学内

理事)

同窓会の名称の件、話題になってきましたね。同窓会の会計担当理事としては、この名称改称の件も、佐伯さんのいう「会社の売上不振の打開」というのとよく似て重大事項のひとつなのです。

同窓会は、会員の会費で運営されていますが、会費の納入者は全卒業者のうち連絡可能な方の5~6割程度で、この善意の献金でニュースなどは全員に送っていますし、名簿の管理も全員のものを行っています。すなわち、「こんな名前の会は、関係無いので会費も払わない」という人の数をミニマムにするのが運営上必要なわけです。造船出身の方から、「大阪府立大学船舶工学科など出たことはないので連絡無用！」などという連絡をもらったり、新しい卒業生からは「船舶工学科ってなんですか？」という質問をもらったり、なかなか大変で、すべての卒業生が違和感なく同窓会に入っていてもらえるのが理想なのです。「船舶の文字がなくなるのは寂しい」という船舶工学科出身の人が多ければ同窓会自体の経営危機ですし、「船舶工学科なんかでていない」という新しい卒業生が増えれば、これまた危機といえます。

ということで、私は、正式名称は「大阪高等工業学校造船科・大阪府立大学船舶工学科・大阪府立大学海洋システム工学科・同窓会」で、愛称を別に「海人の会」とかつけてはどうかと思います。もっぱら大きく使うのは愛称ですが、その横に小さな文字で正式名称があれば、それぞれの時代の卒業生のアイデンティティもはっきりし、きっと会費の納入率もよくなり、同窓会の経営危機も打開！と、うまくいかな？

ニュースの名称も「ふね」から「ふねとうみ」にでも？ これはちょっと安易かな…？

## 大阪府立大学工学部 船舶工学科同窓会第31回理事会報告

日時:1999年12月1日(水)18:00~20:00

場所:たかつガーデン

出席者:

大野会長(大8),増田副会長(大10),奥野副会長(大17),炭田(造2),田口(造3),田中(造3),保田(造3),千種(造4),外山(造4),片岡(大2),木村(大4),岡本(大5),金田(大5),山路(大6),山岡(大7),城野(大8),松岡(大9),磯川(大10),岡田(大12),杉山(大12),出口(大13),吉久(大13),池田(大21),岸(大25),友國(大34),池田(大35),大塚(大35),吉野(大36),有馬(大37),坪郷(大39),片山(大41),  
以上31名

会長挨拶:大野会長より挨拶があった。

議長選出:増田副会長が議長に選出された。

議事:

### (0)理事交代に関する件

報告事項に先立ち、大塚会務理事より以下の理事交代1名、新理事3名の提案があり、承認された。

理事交代:大学9期 岡田勝晴氏→松岡義一氏

新理事 :大学5期 岡本英昭氏,

大学47期 成瀬裕希氏,松宮大介氏

また、若手理事については関西在住者が少なく出席率が悪いので、各期の理事にその期の理事適任者を推薦してもらうように依頼するという提案がなされ、承認された。

### (1)報告事項

#### a)平成10年度会計報告

池田会計理事より資料に基づき平成10年度会計報告があった。

#### b)平成11年度会計中間報告

池田会計理事より資料に基づき平成11年度会計中間報告があり、会費納入率を上げるために年2回以上の請求が望ましいこと、同窓会ニュース「ふね」関係の予算オーバーの是正が必要であることが報告された。

#### c)創立50周年記念会計報告

池田会計理事より資料に基づき創立50周年記念会計報告があり、小学生サマーセミナーが青少年サマーセミナーとして大学行事となったため支出されていないことが報告された。

#### d)大阪府立大学同窓会理事会報告

岡田理事より資料に基づき全学同窓会が行っている創立50周年記念募金事業に関する報告があり、募金が10月31日現在で800万円程度集まっていること、同窓会関係では約1/3が船舶工学科同窓会会員より出されていることが報告された。

#### e)編集委員会報告

岸編集理事より資料に基づき会誌8号およびニュース31号の発行について報告があった。また、ニュース32号の原稿が集まっていないので理事から積極的に投稿していただきたいとの強いお願いがあった。

### (2)協議事項

#### a)平成12年度会計予算案

池田会計理事より資料に基づき平成12年度会計予算案が提案され、承認された。

#### b)同窓会名称および総会に関する件

奥野副会長より資料に基づき同窓会名称変更に関する提案がなされた。主な意見はつぎのとおり。

- ・会員数が最も多い「船舶」を尊重すべきである。
- ・新しい人が入ることが大事。そのためには「海洋シス

テム]は入れる必要がある。

- ・学科の枠組みが大きく変わる可能性を考えると普遍的な愛称を冠に付けるべきである。
- ・結局は現存の学科が「本家筋」であるのだから現学科名称を正式名称とすべきである。
- ・新名称案をいくつか提案して、全同窓会員の投票で決めれば良い。

最終的に、以下の2点を理事会承認事項として決定した。

- ・名称変更を行う。
  - ・新名称案および名称決定までの手続き案を、改めて文書をもって全理事に意見を求めた上で学内理事がまとめ、来春(時期は未定)に理事会を開いて方針を決定する。
- 以上

**平成10年度会計報告書**

(H.10.4.1-H11.3.31 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	2,391,626	振込手数料	34,660
同窓会会費	1,362,000	通信費	236,750
理事会参加費	22,000	役員費	839,775
寄付	3,000	会議費	108,941
利息	1,740	事務費	40,445
雑収入	13,000	印刷費	393,750
		備品費	0
		雑費	6,363
小計	1,401,740	小計	1,660,684
		次期繰越	2,132,682
合計	3,793,366	合計	3,793,366

**平成12年度会計予算案**

(H.12.4.1-H13.3.31 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	1,830,000	振込手数料	56,000
同窓会会費	1,600,000	通信費	255,000
理事会会費	25,000	役員費	730,000
		会議費	90,000
		事務費	60,000
		印刷費	275,000
		備品費	0
		雑費	10,000
		予備費	120,000
		小計	1,596,000
		次期繰越	1,859,000
合計	3,455,000	合計	3,455,000

**会計監査**

大阪府立大学工学部 船舶工学科同窓会殿  
 監事 外山 嵩  
 江川 尚志

平成10年度の同窓会会計につきまして、監査の結果、適正に管理運営されていることを確認いたしましたのでご報告いたします。

**創立50周年記念事業 会計報告**

(H.10.11.1-H.11.10.30 単位:円)

収入の部		支出の部	
前期繰越	143,050	学科賞 (賞状清書他)	12,600
郵便貯金利子	224	次期繰越	130,674
合計	143,274	合計	143,274